

# 約90点の応募の中から決定 大学公式サステナブルTシャツ発売

3月3日から、学生によるオリジナルデザインをあしらった大学公式サステナブルTシャツが販売された。このTシャツは、生産時に発生する本来は捨てられるはずの裁断片を再利用した「リサイクルコットン」を一部素材として使用。さらに環境負荷をできる限りに抑えると同時に、労働環境にも配慮されたサステナブルなアイテムだ。

本企画は上智学院ダイバーシティ・サステナビリティ推進室の学生職員らの、地球規模の課題に対して一度立ち止まり、自分事として考える機会を創出したいという想いから、繊維商社のタキヒヨー株式会社の協力を得て実施に至った。

学生・教職員からデザインを募集し、約90点の応募の中から最優秀賞に選ばれたのは、亀山愛華さん(国教3)の作品。双葉の形状に「Sophia」と「Sustainable」のSを融合させ、本学の持続可能性に対する強い意識や多彩な取り組みを強調したデザインで、中心にある植物の発芽は上智生や教職員が授業での学びや課外活動等での実践を通して社会問題の解決へと向かっている姿勢を描いた。また、背景に地球を取り入れ、大学での取り組みが日本にとどまらず、地球規模の課題解決にも直結していることを訴求している。

1月16日には授賞式が執り行われ、サリ・アガスティン理事長から亀山さんには目録が、特別賞の受賞者には



最優秀賞の他、特別賞には3人が選ばれた

募したデザインが印刷されたTシャツが手渡された。さらに、1月16日～30日の期間中には、2号館1階エントランスで今回商品化には至らなかったデザインを飾った展示会を実施した。

今回のデザイン公募を立案した学生職員の綱澤快さんは、「今回のデザイン公募では、予想を超える多くの作品が集まり、それぞれのデザインに込められたサステナビリティへの想いや独自の視点に驚かされました。今後もこの取り組みがさらに広がり、サステナブルな選択が当たり前となる未来を目指していきたい」と振り返った。

### 【サステナブルTシャツ販売詳細】

販売場所：2号館地下1階パティネ・スポーツ  
価格：2,300円(税込)



## 在学生の保護者・保証人向けのLINEアカウントと特設ページが開設しました

在学生の保護者・保証人の方々を対象としたLINEアカウントを開設しました(これまで運用していた公式LINEアカウントは終了となります)。保護者・保証人向けのニュース定期配信やその他配信により、さまざまな情報をお届けします。ぜひ友だち登録をしていただき、4月からの配信をご覧ください。

また、LINE開設に合わせ、保護者・保証人の方々に知っていただきたい情報や、よくあるお問い合わせなどを整理したウェブページを公開しました。「上智のことは、まずはここを見ればよい」と思っただけのよう、今後もページの充実化を図る予定です。こちらも是非、ブックマークをよろしくお願いたします。



LINEのお友だち登録

LINEのお友だち追加をお願いします



保護者・保証人向けページ

ウェブでも情報の充実化を図ります



## ひと ヨットと向き合い得られた人生の糧

「風の力だけで水面を走る気持ち良さは、他では得られないですね。大自然と一体化したような、不思議な爽快感がたまりません」ヨット部に所属する沖愛海さん(文史4)は、その魅力についてこのように話す。ときとしてモーターボートよりも速く走るといふヨットは、帆で追い風を受けて進むだけでなく、揚力を利用して風上方向に進むこともできる。

競技としてのヨットはセーリングと呼ばれ、海上に設置されたブイ(目印)を定められた順序で周り、ゴールまでの着順を競う。風向きや風速が刻一刻と変化するなか、俊敏な帆や舵の操作が求められる。「ヨットは体力と頭脳を使う戦略のスポーツです。波の動きや潮の流れも読む必要があります。判断や操作を誤れば転覆して海に投げ出されることもあります」

優雅なヨットのイメージとは裏腹に、セーリングの争いは熾烈だ。より良いスタートを切るため、スタート前から位置取りの攻防戦が繰り広げられ、怒号が響くことも少なくない。そのようなタフな環境下で、沖さんは心身ともに鍛え上げられてきた。「多少のことでは動じなくなりましたね。顔つき含め、入部前に比べてたくましくなったと言われます」



文学部史学科4年生 沖愛海さん

沖さんが毎週末通う湘南海岸。力強い海風を求め、関東中からセーラーが集う。普段では出会うことのない幅広い世代の人から、ヨットを通してたくさんの刺激を受け、何度も助けられてきた。「他大学の部員は、ライバルでもあり、仲間でもある。競技人口が少ない分、自然と仲良くなりますし、付き合いも濃くなります」

未経験の世界に飛び込み、ただひたむきにヨットと向き合うことで自分を信じる力に変えてきた。「初心者だった自分が全日本に出場できるとは思いませんでした。自分の限界を知らず知らずのうちに決めてしまうのはもったいないですよ。自然相手に思うようにいかない理不尽さも、いざという時に支え合える仲間も、人生に必要なものはすべてヨットを通して得られたような気がしています」

## 上智大学通信フルリニューアルのお知らせ 創刊号は今夏発行予定

総務局広報グループ発行の『上智大学通信』は、大学と学生およびそのご父母・保証人、教職員とのコミュニケーションを深めることを目的とした広報媒体です。

本紙の創刊は1968年(昭和43年)12月17日でした。当時の四谷キャンパスは学園紛争の混乱の中、故守屋美賀雄学長から学生に発せられた「全学学生諸君に訴える」(その1~3)が本紙の始まりです。その後、機動隊の出動や6ヶ月間の休業宣言などを経て、翌年1月25日に発行した第4号からは『上智大学通信』の題字を掲げました。休業期間中に在学生の各家庭宛てに送付し、大学内の問題や情勢をお知らせする広報紙となりました。

そこから半世紀以上に亘り、大学の教育研究活動の状況、学生や課外活動団体の活躍、諸行事やイベントなど、さまざまな角度から大学の魅力をお伝えしてきましたが、2025年度、内容や形式を一新してフルリニューアルする運びとなりました(新名称は未定)。

新しい広報誌では、タブロイド型から冊子型へ変更となり、合わせて日本語・英語の両表記やデジタルブック形式でのウェブ公開も行うことで、幅広い読者がアクセス可能となります(URLは追ってお知らせいたします)。

今後は、本学の取り組みや魅力をより効果的に発信し、国内外の読者の皆さまにとってさらに親しみやすい媒体を目指します。創刊号は2025年夏にお届け予定です。新たな広報誌にどうぞご期待ください。

長年にわたるご愛読に、心より感謝申し上げます。



上智大学通信創刊号となる、「全学学生諸君に訴える」(その1)



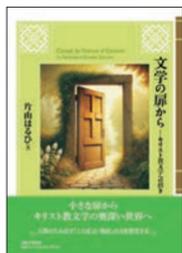
「上智大学通信」の題字が掲げられた第4号

## SUP 上智大学出版 新刊紹介

ぎょうせいオンラインショップ、全国主要書店および紀伊國屋書店上智大学店で販売中。



■『死と再生の臨床心理学』  
横山恭子、長堀加奈子【共編】  
(2,400円+税)



■『文学の扉から  
—キリスト教文学への招き』  
片山はるひ【著】  
(2,500円+税)



■『ダダを超えて  
—ラウル・ハウスマンと  
ポストダダ群像』  
小松原由理【編著】  
(2,300円+税)



ぎょうせいオンラインショップはこちらから